

令和 6 年 5 月 17 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H00034

研究課題名（和文）東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究

研究課題名（英文）The Comprehensive and Comparative Historical Research of Religious Spaces in Ancient East Asian Capitals and Urban Networks

研究代表者

網 伸也（Ami, Nobuya）

近畿大学・文芸学部・教授

研究者番号：60708048

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 35,440,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本・韓国・中国の都城研究者による共同研究・国際会議や国際シンポジウムの開催を通じて、東アジア古代都城の宗教儀礼空間の共通性や、各王権に固有な宗教空間の形成過程について国際的視点から議論を深めた。とくに、古代日本だけでなく中国や朝鮮三国の各王朝の都城や都市の宗教儀礼施設の実態を、最新の成果から具体的に解明するとともに、各王権の信仰と支配の諸側面を比較し検討した。そして、古代都城や都市形成に大きな影響を与えた宗教空間の歴史的特質を、広く東アジア全体から見据えて解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2020年度から継続して行ってきた共同研究会や、3か年にわたる国際会議の開催によって、日本だけでなく韓国や中国での最新の研究成果を検討し、新たな視点から古代宗教空間の歴史的意義を明らかにできた。これらの成果は、2023年11月に韓国および中国の研究協力者を招聘して、「東アジア古代都城と祭祀儀礼・宗教空間」のテーマとする国際公開シンポジウムを開催し、発表要旨集を配布して広く社会に公開するとともに国際交流に貢献した。また、2024年1月には本研究の総括として『東アジア都城と宗教空間』と題する論集を刊行しており、学界に大きく寄与している。

研究成果の概要（英文）：This research deepened discussions from an international perspective on the commonality of religious ritual spaces within ancient East Asian capitals, as well as the formation processes of religious spaces unique to each royal authority, through collaborative research, international conferences, and symposiums involving researchers from Japan, South Korea, and China. Specifically, we concretely elucidated the realities of the religious ritual facilities in the capitals and cities of not only ancient Japan but also the respective royal dynasties of China and the Three Kingdoms of Korea, based on the latest findings. Additionally, we compared and examined various aspects of faith and governance under each royal authority. And we elucidated the historical characteristics of religious spaces that significantly influenced the formation of ancient capitals and cities, taking a broad perspective encompassing the entirety of East Asia.

研究分野：日本考古学

キーワード：東アジア都城 宗教儀礼空間 王権の信仰と支配 論集『東アジア都城と宗教空間』 国際公開シンポジウム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまでの東アジア都城史研究は個別実証的に進められ、それぞれの都城・都市研究において大きな成果を挙げてきた。しかし、古代都城・都市の形成や発展に大きな影響を与えたと考えられる宗教儀礼施設を、東アジア全体で通時的・比較史的に共同研究を行うことまでにはいたっていないのが現状であった。現在、日本だけでなく韓国や中国においても都城の発掘調査が進展し、寺院などの宗教儀礼施設の研究成果が蓄積している。個別的研究だけでなくこれらの成果を総括して集成し、考古学や日本史・東洋史からの検討だけでなく、宗教史や民俗学など関連する諸分野とも連携して、東アジア都城・都市網の宗教空間についての総合的な研究を進めていくのが本研究である。

2. 研究の目的

本研究では古代都城・都市と宗教儀礼施設の関係、とくに宗教空間が「信仰と支配」の二面性をもっていることに着目し、古代都城・都市における祈りの場の重層的構造を明らかにする。そして、中国古代王朝をはじめ古代朝鮮三国などの東アジア諸国の古代都城・都市と日本の古代都城・都市とを比較研究することによって、古代都城・都市形成に大きな影響を与えた宗教空間の歴史的特質を汎東アジア的視点から解明することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究の柱として、独自の共同研究会と国際会議の開催、海外都城遺跡の踏査、国内宮都遺跡の踏査、基礎的資料の収集と整理、の4つの方法で研究を進める予定だったが、初年度より新型コロナウイルスの感染拡大によって研究方法を大きく変更せざるを得ない状況となった。

まず、「独自の共同研究会と国際会議の開催」では、国内外の研究代表者・研究分担者・研究協力者が出席する共同研究会を毎年2回実施する予定だったが、新型コロナウイルスの感染禍によって初年度はオンラインによる共同研究準備会の開催だけになってしまった。しかし、2021年度以降は北陸、九州、伊勢、鹿嶋での共同研究会をオンラインと対面のハイフレックスで開催し、同時に「国内宮都遺跡の踏査」として日本の古代王権と関わる国内の宗教空間遺跡の実地調査を併行して実施した。また、国際会議は海外への渡航が困難な状況であったため、近畿大学を拠点として初年度から3回にわたってオンラインで開催し、韓国と中国の研究者と本研究のテーマに沿った内容の研究発表および討論を行い、課題の共有とともに国際交流を深めていった。

「海外都城遺跡の踏査」も新型コロナ禍で実現が難しい状況であったが、2022年度の後半より韓国への渡航の規制が緩和されたため、2023年3月に韓国慶州の宗教関連遺跡の調査、2023年8月に韓国百済都城と宗教関連遺跡の調査、2024年3月には慶州南山宗教遺跡群の調査を実施し、韓国の研究者との直接的交流ができた。ただ、中国の都城遺跡の実地調査は実現することができなかったが、最終年度の2023年11月にこれまでの研究成果を公開する国際公開シンポジウムを日本で開催することとなり、韓国と中国の研究協力者を招致し学術的親交を深めることができた。

「基礎的資料の収集と整理」については、データベース作成班を研究組織内につくり、考古学資料班と文献資料班の責任者を任命して、4年間にわたり日本・朝鮮三国・中国の宗教関連資料を収集し、データベースの構築を行った。

4. 研究成果

本研究では、古代における東アジア諸国の都城および都市と宗教儀礼施設（礼制建築、寺院、祭祀関連遺跡など）との関連性について、近年の考古学的成果や関連する文献史料などを詮索し、宗教空間が都城・都市形成に及ぼした歴史的意義を、日本・中国・韓国の研究者とともに比較研究してきた。

研究を進めるにあたっては、古代都城・都市と宗教儀礼施設の関係、とくに宗教空間が「信仰と支配」の二面性をもっていることに着目し、日本だけでなく中国や朝鮮三国の各王朝の都城および下に展開する都市の宗教儀礼施設の実態を、最新の成果から具体的に解明しつつ、その基底にある各王権の信仰と支配の諸側面を比較検討してきた。そして、古代都城・都市における祈りの場の重層的構造を視野にいれて、比較史の視点から古代都城・都市形成に大きな影響を与えた宗教空間の歴史的特質を、汎東アジア的視点から解明することに主眼をおいて議論を重ねてきた。

なお、国際共同研究では、東アジア古代都城の宗教空間の多様性を再確認し、多くのことを学ぶことができたといえる。その中でもとくに印象に残ったのは、儒教の王権論に基づく古代都城に多様な宗教空間がどのように組み込まれたのかという課題である。たとえば、南北中軸線を基軸として地上に儒教的空間を作り出す古代都城に、普遍的世界観をもつ仏教が寺院として空間を共有するが、その背景には儒教による王権の正統性の誇示とともに、仏教によって王権そして王権を構成する人々の安寧を保障する目的が想定できる。そして、仏教による王権の普遍的保証は、寺院の大伽藍として都城の中で可視化され、それが都城の主体となる宮殿とともに権力を示す装置として機能しているのである。仏教寺院が都城の中軸を意識して配置されている事実は、隋唐長安城をはじめ渤海上京城や日本の平城京など東アジア古代都城で多く指摘することが可能であり、まさに儒教的空間と共存する寺院の性格をよく示しているといえる。

また、都城に居住する人々にとっては、貴俗を越えて現世利益を満たす様々な祈りの対象が重視されており、仏教だけでなく道教や神祇的性格をもつ固有信仰の祭祀行為が都城の中で繰り広げられた。その一方で、古代都城の周辺に形成される宗教空間の比較検討も興味深い。たとえば、仏教寺院が造営される土地は元来、山神や龍神など在地の神が居住する聖なる地であり、日本ではこれらの在地神から土地を譲られたり神仏が習合して伽藍が造営される事例が多く見受けられる。さらに、日本の北陸や山陰地域など境界域で確認されている多量の大型祭祀具による祭祀は、京内で執り行われた都城祭祀とは様相が大きく異なっており、重層的構造をもつ律令祭祀の本質的な性格について議論を進めることができた。このような古代都城をとりまく宗教空間のあり方をみると、東アジア諸国に形成された王権の支配構造によって、それぞれが独自の祭祀形態を生み出したことが想定できる。

その具体的な共同研究の成果として、日本では初期仏教の受容と古代王宮の変遷の関係性や、都城が形成される地形的制約のなかで仏教寺院がどのように取り込まれていったのかという問題を、王権中枢の飛鳥から平安京にいたる各都城において解明した。そして、日本固有の律令祭祀具の出土状況を確認し、畿内における動向の背景に都城をとりまく要衝地での境界祭祀の表出を見出し、在地では北陸の白山信仰や大宰府の竈神信仰などの実態に迫った。

また、古代朝鮮三国では半島の統一を実現した新羅における都城・国家と宗教空間の関係を明らかにした。とくに王京の南西域、南山の北西山麓で発見された蘿井遺跡の分析によつ

て、建国始祖である赫居世の始祖廟として成立した祭儀施設が王統の交代に伴い、王京南郊において金氏始祖あるいは天地神を祀る神宮の祭祀空間となり、中代の文武王から神文王期においては国家統一の正当性を誇示するために、神宮を院で構成される八角形礎石建物に整備していった状況が明らかとなった。また、その他の国家祭儀である名山大川祭祀は、都城の四方境界を守護する護国祭祀として位置付けられ、仏教が公認されると王京における神聖な宗教空間に寺院が建立されていき、王室の成典寺院の制度的確立や貴族たちが喜捨した私寺も造営され、仏国土としても王京を守護するシステムが構築される状況を確認できた。

中国王朝では漢長安城の祭祀である天帝・人帝祭祀や、漢魏洛陽城での南郊礼制建築の実態が明らかとなり、曹魏洛陽城の詳細な分析では大極殿・昭陽殿や闔闔門の造営と銅駝街の設定によって、東方からの導線を重視しつつも南北を基軸とする都城概念が成立する。一方、中国都城における初期仏教寺院の造営と都城との関係性については、江南最古の寺院である建初寺の位置を検証し、初期寺院の造営から都城での計画的配置、そして宮城内あるいは都城の基軸となる街路設計のなかに国家大寺が計画的に配置される変遷過程が明らかとなった。このような初期寺院から都城内における寺院の計画的配置への変遷は、南北朝から隋唐都城だけでなく、日本を含めた東アジア周辺国家の都城形成における寺院造営にも大きな影響を及ぼしており、その一つの事例として高句麗から渤海期にかけての図們江下流域の初期寺院の分析を行った。

さらに、東アジアの文化的・政治的国際交流の実態を宗教・儀礼の側面から検討し、百済の寺院造営の展開における中国王朝との関連や、舒明朝の百済大寺造営における新たな伽藍計画での百済の影響などを再検討した。そして、中国を統一した隋・唐と東アジア諸国の都城、なかでも武周王権が日本に与えた思想的影響やそれを可視化した都城の構造についてまとめた。唐王権では政治・経済・宗教政策などの変遷に対応させながら、長安城と洛陽城の構造的転換がなされており、とくに中国史上で唯一の女性皇帝である武則天が樹立した武周時代には、仏教の「転輪聖王思想」による王権論がその正当性を保証し、仏教を重視した宗教的政策が多くなされた。七・八世紀の東アジア諸国では中国との政治的・文化的交流のなかで、これら中国都城のもつ様々な普遍思想を伝統的思想と共存させながら固有な都城を造営していったのであり、大宝律令の施行の翌年に武周王権へ朝貢した日本も国名改称の承認をはじめとする対唐外交の問題解決に成功するとともに、中国で受容した新しい宗教・文化的思想によって平城京という仏都造営が進められ、従前からの女性天皇の即位も思想的に正当化できたのである。

以上が本研究の成果であるが、これらの研究成果については2024年1月に『東アジア都城と宗教空間』と題する論文集として刊行し、本研究の総括を行うとともに広く学界に寄与した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計59件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 網伸也	4. 巻 37
2. 論文標題 初期平安京における離宮の継承と発展	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 糸里制・古代都市研究	6. 最初と最後の頁 29-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中章	4. 巻 22
2. 論文標題 桓武天皇の遊獵地と禁野・禁苑の形成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 三重大史学	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國下多美樹	4. 巻 153
2. 論文標題 難波の市と宗教空間	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 龍谷史壇	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 -
2. 論文標題 東京帝国大学東洋史学の満洲史及び朝鮮史、満鮮史研究：白鳥庫吉・池内宏関係文書を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝国の学術企画と満州	6. 最初と最後の頁 110-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 73-1
2. 論文標題 北朝鮮における楽浪郡研究 郡治所在地をめぐる議論を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 91-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 74
2. 論文標題 稲葉君山の檀君神話認識 否定的評価と肯定的解釈の背後	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 韓日関係史研究	6. 最初と最後の頁 43-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田裕樹	4. 巻 -
2. 論文標題 群集墳の終焉について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 群集墳研究の新視角	6. 最初と最後の頁 165-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李浩陽	4. 巻 -
2. 論文標題 接地面積からみた東大寺大仏殿の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集、建築歴史・意匠 2021	6. 最初と最後の頁 843-844
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 73-1
2. 論文標題 夫余の漢文化受容と遼東郡・玄菟郡	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 59
2. 論文標題 百済武寧王をめぐるいくつかの問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朝鮮史研究会論文集	6. 最初と最後の頁 5-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾達彦	4. 巻 106
2. 論文標題 中国の国土観の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 土木学会誌	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村元健一	4. 巻 75
2. 論文標題 長安周辺の西魏・北周墓群について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 郵政考古紀要	6. 最初と最後の頁 14-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木拓也	4. 巻 37
2. 論文標題 平安京の南辺を歩く	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 条里制・古代都市研究	6. 最初と最後の頁 139-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中 章	4. 巻 21
2. 論文標題 甲斐国の御牧「真衣野牧」の成立と展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三重大史学	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋芳孝・小口雅史	4. 巻 149
2. 論文標題 ロシア沿海地方・10世紀の平地城と山城踏査について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 弘前大学國史研究	6. 最初と最後の頁 22-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國下多美樹・前田詞子	4. 巻 72巻3号
2. 論文標題 長岡京跡および周辺で採集された軒瓦	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 98-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 72
2. 論文標題 石窟庵と近代日本 曾禰荒助韓国統監・寺内正毅朝鮮総督を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都府立大学学術報告（人文篇）	6. 最初と最後の頁 113-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田裕樹	4. 巻 121-11
2. 論文標題 飛鳥の土器と『日本書紀』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 332-361
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 李陽浩	4. 巻 60
2. 論文標題 南禅寺大殿のゴヒラ角柱について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系	6. 最初と最後の頁 465-468
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李陽浩	4. 巻 -
2. 論文標題 古代建築の接地面積について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集、建築歴史・意匠 2020	6. 最初と最後の頁 45-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李陽浩	4. 巻 -
2. 論文標題 難波宮：前期難波宮の建築的特質とその源流・未流	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帝塚山大学考古学研究所編『難波宮と藤原宮』	6. 最初と最後の頁 2-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 26
2. 論文標題 『日本書紀』朝鮮関係記事と百済三書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都産業大学日本文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 132-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 22
2. 論文標題 加耶考古学の進展と加耶史研究の現況	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋文化研究	6. 最初と最後の頁 161-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾達彦	4. 巻 7
2. 論文標題 ユーラシア東部の現代都市 - 北京 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 101 - 110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 AMI Nobuya	4. 巻 124
2. 論文標題 Changes In Japan's Ancient Capitals	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ACTA ASIATICA	6. 最初と最後の頁 101-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 -
2. 論文標題 倭の五王の南朝遣使と東アジア世界	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 5世紀の倭と東アジア 国際シンポジウム記録集	6. 最初と最後の頁 85-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 92
2. 論文標題 朝鮮三国と渤海の宮廷苑池	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宮廷苑池の誕生 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館特別展図録	6. 最初と最後の頁 72-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 -
2. 論文標題 高句麗中期王都集安をめぐるいくつかの問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 高句麗都城景観と防禦体系の新たな認識 韓国国立文化財研究院	6. 最初と最後の頁 93-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TANAKA Toshiaki	4. 巻 124
2. 論文標題 The Capital City of Silla	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ACTA ASIATICA	6. 最初と最後の頁 79-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋芳孝	4. 巻 10
2. 論文標題 ロシア沿海地方における渤海の領域について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 纏向学研究	6. 最初と最後の頁 659-666
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋芳孝	4. 巻 25
2. 論文標題 瓦当文様の変遷から見た渤海王都の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 唐代史研究	6. 最初と最後の頁 37-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KOJIMA Yoshitaka	4. 巻 124
2. 論文標題 An examination of the capitals of Po-hai based on research on changes in antefix motifs	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ACTA ASIATICA	6. 最初と最後の頁 37-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋芳孝	4. 巻 13
2. 論文標題 クラスキノ城跡出土石帯の再検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 同志社大学考古学シリーズ 考古学と文化史	6. 最初と最後の頁 525-534
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾達彦	4. 巻 92
2. 論文標題 中国の宮廷苑池の系譜 - 隋唐長安・洛陽を中心に -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宮廷苑池の誕生 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館特別展図録	6. 最初と最後の頁 77-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SEO Tatsuhiko	4. 巻 124
2. 論文標題 East Asian Capital Cities of the Seventh and Eighth Centuries in Comparative Light	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ACTA ASIATICA	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾達彦	4. 巻 67
2. 論文標題 五陵の親謁 - 武周から玄宗期にいたる都城と陵墓 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央大学文学部紀要 史学	6. 最初と最後の頁 41-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾達彦	4. 巻 23
2. 論文標題 武則天的神都、長安和日本都城	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 域外漢籍研究集刊	6. 最初と最後の頁 2-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國下多美樹	4. 巻 -
2. 論文標題 人面墨書土器研究のゆくえー福井市高柳遺跡の研究ノートー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 高山流水ー赤澤徳明氏退職記念論集	6. 最初と最後の頁 143-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國下多美樹	4. 巻 499
2. 論文標題 「長岡京大内裏附近分布図」と長岡宮の初期復元研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 龍谷大学論集	6. 最初と最後の頁 46-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田裕樹	4. 巻 -
2. 論文標題 日本古代都城における条坊と宅地 - 平城京を中心に -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『新羅の住居文化』(第15回新羅学国際学術大会資料集)	6. 最初と最後の頁 223-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田裕樹	4. 巻 5
2. 論文標題 平城宮東院地区の遺構変遷に関する基礎的検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化財論叢	6. 最初と最後の頁 431-450
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李陽浩	4. 巻 -
2. 論文標題 接地面積からみた大仏様建築の特徴：浄土寺浄土堂、東大寺南大門を例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集、建築歴史・意匠 2022	6. 最初と最後の頁 323-324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李陽浩	4. 巻 62
2. 論文標題 岩橋型石室におけるゴヒラ石梁について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集、計画系	6. 最初と最後の頁 381-384
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋篤 (共著)	4. 巻 -
2. 論文標題 大野城跡・四王院跡出土土器の総量分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大宰府四王院	6. 最初と最後の頁 26-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋篤	4. 巻 11
2. 論文標題 津屋崎古墳群の造営と埴輪生産	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 埴輪論叢	6. 最初と最後の頁 77-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋篤	4. 巻 160
2. 論文標題 横穴式石室と群集墳 九州	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊 考古学	6. 最初と最後の頁 49-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 25
2. 論文標題 新羅神宮神主考 新羅の聖地祭祀の基礎的考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 聖地霊場の成立についての分野横断的研究 京都府立大学文化遺産学叢書	6. 最初と最後の頁 209-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村元健一	4. 巻 -
2. 論文標題 日本複都制の起源について 天武・聖武朝を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本研究論文集 日本の都城と東アジア	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 網伸也	4. 巻 -
2. 論文標題 平安京官窯の様相からみた与兵衛沼瓦窯	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 2023年度日本考古学協会宮城大会「災害と境界の考古学」研究発表資料集	6. 最初と最後の頁 347-359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 -
2. 論文標題 管山城の戦いと倭	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 新羅と百済、そして加耶および倭の管山城戦闘参戦背景と以後の変化	6. 最初と最後の頁 61-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 -
2. 論文標題 百済古都益山と倭国との関係	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東アジアのなかの古都益山	6. 最初と最後の頁 226-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋芳孝	4. 巻 -
2. 論文標題 渤海の歴史と使節の派遣	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 碧の海道 古代の日本海交流 石川県立歴史博物館令和5年度春季特別展図録	6. 最初と最後の頁 92-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田裕樹	4. 巻 -
2. 論文標題 飛鳥宮周辺の饗宴施設 - 口の字形配置の建物群を中心に -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 シンポジウム「飛鳥宮の儀礼と空間構成」報告集	6. 最初と最後の頁 55-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李陽浩	4. 巻 82
2. 論文標題 書評：宋原永遠男著『難波古代史研究』	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 建築史学	6. 最初と最後の頁 116-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋篤	4. 巻 -
2. 論文標題 遠賀川流域と飛鳥時代	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 集落と古墳の動態 第24回九州前方後円墳研究会資料集	6. 最初と最後の頁 161-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋篤	4. 巻 -
2. 論文標題 「した鞍尽くしの坂」の探究	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大宰府と坂道を考える - つづら折りの官道と古代の坂越え - 九州国立博物館「大宰府学研究」事業シンポジウム資料集	6. 最初と最後の頁 27-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋篤	4. 巻 49
2. 論文標題 筑紫君と「した鞍尽くしの坂」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 九州歴史資料館研究論集	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 261
2. 論文標題 百済官位成立考 百済官位と中国將軍号	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 朝鮮学報	6. 最初と最後の頁 1-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村元健一	4. 巻 65-1
2. 論文標題 南斉・梁の陵墓と仏教	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 佛教史学研究	6. 最初と最後の頁 99-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件 (うち招待講演 23件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 網伸也
2. 発表標題 初期平安京における離宮の継承と発展
3. 学会等名 条里制・古代都市研究会第38回大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小嶋芳孝
2. 発表標題 斉藤優が調査した図們江（豆満江）下流域の渤海遺跡
3. 学会等名 第一回 渤海考古学シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小嶋芳孝
2. 発表標題 瓦当による渤海王都変遷の検討
3. 学会等名 唐代史研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小嶋芳孝
2. 発表標題 古代日本海域における人の移動 - 渤海・日本航路を中心に -
3. 学会等名 日本考古学協会金沢大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小嶋芳孝
2. 発表標題 渤海の都城 - 建国から上京までの変遷
3. 学会等名 中央大学人文科学研究所オンライン研究会「東アジア比較都城史研究会の今」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 新羅中代の宗廟と寺院 恵恭王王代の宗廟改編と奉恩寺
3. 学会等名 韓国慶北大学校人文大学 人文国際学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 李陽浩
2. 発表標題 高津宮の位置をめぐる：堀江開削記事の一解釈
3. 学会等名 都城制研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 李陽浩
2. 発表標題 接地面積からみた東大寺大仏殿の変遷
3. 学会等名 日本建築学会大会（東海）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村元健一
2. 発表標題 都城史における曹魏洛陽の画期性
3. 学会等名 中央大学人文科学研究所オンライン研究会「東アジア比較都城史研究会の今」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小嶋芳孝
2. 発表標題 渤海仏教遺跡研究の現状と課題
3. 学会等名 東アジア比較都城史研究会 第1回共同研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 高句麗王系整備と美川王
3. 学会等名 朝鮮学会第71回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李陽浩
2. 発表標題 南禅寺大殿のゴヒラ角柱について
3. 学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李陽浩
2. 発表標題 古代建築の接地面積について
3. 学会等名 日本建築学会大会（関東）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 網伸也
2. 発表標題 中河内の古代寺院における弓削寺の重要性
3. 学会等名 令和4年度史跡由義寺跡シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小嶋芳孝
2. 発表標題 寺家遺跡から探る古代の気多神社
3. 学会等名 石川考古学研究会11月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 國下多美樹
2. 発表標題 古代都城と市－難波・長岡・平安京－
3. 学会等名 難波宮址を守る会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木拓也
2. 発表標題 弘田柵跡と雄勝城
3. 学会等名 弘田柵跡環境整備40周年記念シンポジウム「史跡整備と活用を考える」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木拓也
2. 発表標題 將軍・遣唐使と節刀 節刀の百濟献上伝承をめぐって
3. 学会等名 日韓古代文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小田裕樹
2. 発表標題 日本古代都城における条坊と宅地
3. 学会等名 第15回新羅学国際学術大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 李陽浩
2. 発表標題 接地面積からみた大仏様建築の特徴：浄土寺浄土堂、東大寺南大門を例に
3. 学会等名 日本建築学会大会（北海道）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 李陽浩
2. 発表標題 岩橋型石室におけるゴヒラ石梁について
3. 学会等名 日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀大介
2. 発表標題 古代神仏習合の考古学的検討 初期神宮寺の類型化と成立時期を中心に
3. 学会等名 鷹陵史学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 新羅神宮神主考
3. 学会等名 朝鮮学会第73回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 百濟官位成立考
3. 学会等名 2022年度九州史学大会朝鮮学部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山中章
2. 発表標題 水無瀬殿前夜に光を当てて ～ 継体・聖武・桓武天皇から後鳥羽上皇へ～
3. 学会等名 水無瀬殿（水無瀬離宮）研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村元健一
2. 発表標題 中国南北朝時代の仏寺と陵寢
3. 学会等名 佛教史学会大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 網伸也
2. 発表標題 平安京官窯の様相からみた与兵衛沼瓦窯
3. 学会等名 2023年度日本考古学協会宮城大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 國下多美樹
2. 発表標題 人面墨書土器研究の展望
3. 学会等名 第65回考古学談話会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 國下多美樹
2. 発表標題 紫香楽宮と恭仁宮
3. 学会等名 令和5年度紫香楽宮フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鈴木拓也
2. 発表標題 東北古代史の中の阿光坊古墳群
3. 学会等名 おいらせ阿光坊古墳館歴史講座（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 堀大介
2. 発表標題 古代平泉寺の宗教空間と白山信仰
3. 学会等名 白山文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 韓国高敞出土將軍号銅印考 六世紀前半の百済の支配秩序の一側面
3. 学会等名 2023年度九州史学大会朝鮮学部会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上直樹
2. 発表標題 韓国高敞出土將軍号銅印考 六世紀前半 百済の支配秩序の一側面
3. 学会等名 第42回韓国木簡学会定期発表会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小嶋芳孝
2. 発表標題 二仏並坐像の謎に迫る - 渤海建国の地と日本道
3. 学会等名 石川県立歴史博物館「石川の歴史遺産セミナー」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小嶋芳孝
2. 発表標題 渤海史研究の最前線 - 渤海王都の変遷と渤海日本航路研究の現状
3. 学会等名 日韓古代文化研究会(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小嶋芳孝
2. 発表標題 渤海国の歴史 - 8・9世紀の日本海対岸世界 -
3. 学会等名 石川県生涯学習センター「ふるさとふれあい講座」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小嶋芳孝
2. 発表標題 沓岐の古代史 - 国分寺(鳥分寺)出土の幅広カキ目調整平瓦を探る
3. 学会等名 一支博物館(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小嶋芳孝
2. 発表標題 渤海の花文帯金具について
3. 学会等名 横浜ユーラシア文化館開館20周年記念シンポジウム「東アジアの帯金具と古代の日本」(招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計49件

1. 著者名 網伸也(共著図書)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 304
3. 書名 聖徳太子と四天王寺(「古代の四天王寺」担当)	

1. 著者名 井上直樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 塙書房	5. 総ページ数 512
3. 書名 高句麗の史的展開過程と東アジア	

1. 著者名 井上直樹(共著図書)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 252
3. 書名 高句麗・渤海史の射程(「高句麗王系成立考 整備の諸段階と美川王」担当)	

1. 著者名 田中俊明（共著図書）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 302
3. 書名 中華世界の盛衰 4世紀（「楽浪と「東夷」世界 三世紀にいたる秘められた水脈」・「朝鮮半島の漢字受容」担当）	

1. 著者名 妹尾達彦（共著図書）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 宗教文化出版社	5. 総ページ数 385
3. 書名 漢伝仏教と亜細亞城市生活（「通天帝国」担当）	

1. 著者名 網 伸也（共著図書）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 882
3. 書名 難波宮と古代都城（「後期難波宮の構造的諸問題と長岡遷都」担当）	

1. 著者名 網 伸也（共著図書）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 502
3. 書名 講座畿内の古代学（「平安京」担当）	

1. 著者名 網 伸也 (共著図書)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 300
3. 書名 古代日本と渡来系移民 (「難波百済寺と百済王氏 百済郡建郡と交野移貫の実態」担当)	

1. 著者名 山中 章 (共著図書)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 502
3. 書名 講座畿内の古代学 (「長岡宮」・「平安京と遊獵」担当)	

1. 著者名 小嶋芳孝 (共著図書)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 502
3. 書名 講座畿内の古代学 (「渤海王都の変遷」担当)	

1. 著者名 小嶋芳孝 (共著図書)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 466
3. 書名 渤海の古城と国際交流	

1. 著者名 國下多美樹（共著図書）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 882
3. 書名 難波宮と古代都城（「都の北に何があったかー方形地割都市プランの拡大ー」担当）	

1. 著者名 國下多美樹（共著図書）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 852
3. 書名 古代史論聚（「都の東西市はなぜ京南におかれたか」担当）	

1. 著者名 小田裕樹（共著図書）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 882
3. 書名 難波宮と古代都城（「飛鳥地域における口の字形配置の建物群について」担当）	

1. 著者名 小田裕樹（共著図書）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中国書店	5. 総ページ数 888
3. 書名 持続する志 上（「平城宮東院 6 期遺構群の復元と構造」担当）	

1. 著者名 李陽浩（共著図書）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 502
3. 書名 講座畿内の古代学（「難波宮」担当）	

1. 著者名 村元健一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 柳本照男さん古稀記念論集刊行会	5. 総ページ数 474
3. 書名 忘年之交の考古学（「朝鮮都城における中国都城の影響 ～条坊制の導入をめぐって～」担当）	

1. 著者名 妹尾達彦（共著図書）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 882
3. 書名 難波宮と古代都城（「長安702年：武則天と倭国朝貢使」担当）	

1. 著者名 妹尾達彦（共著図書）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 304
3. 書名 歴史の転換期3 750年 普遍世界の鼎立（「長安751年 - ユーラシアの変貌 - 」担当）	

1. 著者名 妹尾達彦（共著図書）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 上海教育出版社	5. 総ページ数 272
3. 書名 中国城市社会史名篇精読（「唐代後期の長安与伝奇小説 - 以『李娃伝』的分析爲中心 - 」担当）	

1. 著者名 妹尾達彦（共著図書）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 502
3. 書名 講座畿内の古代学（「中国王都の形成 - 隋唐以前 - 」・「隋唐の王都」担当）	

1. 著者名 井上直樹（共著図書）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ヘアン	5. 総ページ数 552
3. 書名 境界を越える高句麗・渤海史研究（「高句麗遺民の対日外交」担当）	

1. 著者名 田中俊明（共著図書）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 728
3. 書名 アジア人物史2（「朝鮮半島の六世紀 百済の中興と新羅の台頭」担当）	

1. 著者名 田中俊明（共著図書）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 都市と宗教の東アジア史（アジア遊学280）（「朝鮮三国の国家祭祀」担当）	

1. 著者名 小嶋芳孝	4. 発行年 2023年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 370
3. 書名 古代環日本海地域の交流史	

1. 著者名 小嶋芳孝（共著図書）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 奥尻町教育委員会	5. 総ページ数 114
3. 書名 青苗遺跡重要資料総括報告書	

1. 著者名 妹尾達彦（編図書）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 770
3. 書名 アジア人物史 1	

1. 著者名 妹尾達彦 (編図書)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 692
3. 書名 アジア人物史2	

1. 著者名 妹尾達彦 (編図書)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 769
3. 書名 アジア人物史 7	

1. 著者名 妹尾達彦 (編図書)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 758
3. 書名 アジア人物史 8	

1. 著者名 妹尾達彦 (編図書)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 796
3. 書名 アジア人物史10	

1. 著者名 妹尾達彦（共著図書）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央大学出版	5. 総ページ数 508
3. 書名 歴史の中の個と共同体（「9世紀の転換 長安街東社会の形成」担当）	

1. 著者名 妹尾達彦（共著図書）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 537
3. 書名 中国文化の統一性と多様性（「中国文化の統一性と多様性 - 行政都市網の変遷を手がかりに -」担当）	

1. 著者名 妹尾達彦（共著図書）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 334
3. 書名 古代東アジア都市の構造と変遷（「東アジア都市史と紅河流域」担当）	

1. 著者名 網伸也（編著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「古代日本の王宮空間と仏教受容 「仏都」の前提をさぐる」担当）	

1. 著者名 田中俊明（共著図書）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 古代史講義【海外交流篇】（「加耶と倭」担当）	

1. 著者名 田中俊明（共著図書）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠社	5. 総ページ数 462
3. 書名 東アジアの王宮・王都と仏教（「新羅の月池宮と拝仏・祭祀」担当）	

1. 著者名 李陽浩（共著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「難波宮・京の地形・地割と寺院との関係性」担当）	

1. 著者名 山中章（共著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「平安京南郊の宗教空間に関する基礎的考察 貞観寺伽藍復元試論」担当）	

1. 著者名 國下多美樹（共著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「人面墨書土器研究と律令祭祀 多量出土遺跡の再評価」担当）	

1. 著者名 鈴木拓也（共著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「鹿島神・香取神と春日社の成立」担当）	

1. 著者名 小嶋篤（共著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「筑紫の社 筑紫神社・宗形神社・竈門神社 」担当）	

1. 著者名 堀大介（共著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「古代越前における二つの宗教空間の形成」担当）	

1. 著者名 田中俊明（共著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「新羅王都の私寺 貴族・庶民の喜捨寺院」担当）	

1. 著者名 井上直樹（共著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「新羅の宗廟と寺院 恵恭王代の宗廟改編と奉恩寺」担当）	

1. 著者名 村元健一（共著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「曹魏洛陽城の画期性」担当）	

1. 著者名 小嶋芳孝（共著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「図們江下流域の初期仏教寺院と渤海東京附属寺院」担当）	

1. 著者名 小田裕樹（共著図書）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「法隆寺式伽藍配置の由来に関する覚書」担当）	

1. 著者名 妹尾達彦	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 470
3. 書名 東アジア都城と宗教空間（「東アジア都城時代の宗教空間と国際関係 武周（六九〇ー七〇五）を中心に」担当）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堀 大介 (Hori Daisuke) (00913641)	佛教大学・歴史学部・教授 (34314)	
研究分担者	李 陽浩 (Ri Yanho) (10344384)	地方独立行政法人大阪市博物館機構（大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪・大阪歴史博物館・研究副主幹 (84433)	
研究分担者	小嶋 芳孝 (Kojima Yoshitaka) (10410367)	金沢大学・古代文明・文化資源学研究所・客員教授 (13301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	櫻木 潤 (Sakuragi Jun) (10454604)	高野山大学・文学部・准教授（移行） (34701)	
研究分担者	妹尾 達彦 (Seo Tatsuhiko) (20163074)	中央大学・文学部・教授 (32641)	
研究分担者	鈴木 拓也 (Suzuki Takuya) (30330236)	近畿大学・文芸学部・教授 (34419)	
研究分担者	國下 多美樹 (Kunishita Tamiki) (30644083)	龍谷大学・文学部・教授 (34316)	
研究分担者	山中 章 (Yamanaka Akira) (40303713)	公益財団法人古代学協会・その他部局等・客員研究員 (74306)	
研究分担者	田中 俊明 (Tanaka Toshiaki) (50183067)	公益財団法人古代学協会・その他部局等・客員研究員 (74306)	
研究分担者	小嶋 篤 (Kojima Atsusi) (60564317)	九州歴史資料館・埋蔵文化財調査室・研究員（移行） (87111)	
研究分担者	小田 裕樹 (Oda Hiroki) (70416410)	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員 (84604)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井上 直樹 (Inoue Naoki) (80381929)	京都府立大学・文学部・教授 (24302)	
研究分担者	村元 健一 (Muramoto Kenichi) (90344382)	地方独立行政法人大阪市博物館機構（大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪・大阪歴史博物館・課長代理 (84433)	
研究分担者	鈴木 一議 (Suzuki Kazuyoshi) (90443572)	奈良県立橿原考古学研究所・調査部調査課・指導研究員 (84602)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中島 信親 (Nakajima Nobuchika)		
研究協力者	松吉 祐希 (Matsuyoshi Yuki)		
研究協力者	井上 信正 (Inoue Nobumasa)		
研究協力者	中村 亜希子 (Nakamura Akiko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	李 銀眞 (Ri Unjin)		
研究協力者	朴 淳發 (Paku Sunparu)		
研究協力者	黄 仁鎬 (Fan Ino)		
研究協力者	李 炳鎬 (Ri Byonho)		
研究協力者	金 東河 (Kim Dongha)		
研究協力者	劉 振東 (Ryu Shintou)		
研究協力者	錢 国祥 (Sen Kokushou)		
研究協力者	張 建林 (Chou Kenrin)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	張 学鋒 (Chou Gakuhou)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究 第1回国際会議	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究 第2回国際会議	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究 第3回国際会議	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 東アジア古代都城と祭祀儀礼・宗教空間 国際公開シンポジウム	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関